



静岡県防衛大学校協力が会が学生を激励



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐／現・定免克己1等空佐）は、7月6日（木）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）において、同基地を研修で訪れた防衛大学校（神奈川県横須賀市）1年生に対する「静岡県防衛大学校協力会」による激励を取材した。

静岡県防衛大学校協力会は、国防の未来を担う若者を育成する防衛大学校の活動を支援・協力する目的で平成13年に設立。学生が富士登山などを実施する夏季訓練や研修を行うのに合わせて毎年この時期に激励を実施している。

この日、同協力会は激励に先立ち、まず和田篤夫会長による浜松基地司令・谷嶋正仁空将補への表敬訪問を実施した。谷嶋司令は自身も防衛大学校の出身者であり、同協力会への理解・共感を示されるとともに、今後一層の活発な活動への期待を述べられた。

その後、隣接する浜松広報館において、研修に訪れた防衛大学校学生への激励が行われた。学生を代表して静岡県出身の池川泰雅学生と生田和己学生に対して、自衛隊OBで県議会議員である和田会長から益々の精進を期待する言葉と激励品「富士山のおいしい水」が贈呈されると、激励に訪れた会員や学生の家族などによる温かい拍手に包まれた。

激励を終え、和田会長は「様々な勉強や訓練で大変だと思いが今が最も大事な時期。将来の国防を支える自衛隊の指揮官候補として崇高な使命への自覚を持って真っ直ぐに成長してほしい。協力会も力の限り支えていく」と熱く語った。

静岡地本は、今後も各種協力団体の活動意義を具現化できるような支援を積極的に実施するとともに、国民と自衛隊の架け橋たる各種協力団体との関係を強化して防衛基盤の拡充に努めていく。

防大生が静岡募集案内所を訪問



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）静岡募集案内所は、8月3日（木）、同事務所（静岡市）において防衛大学校2年生・伊藤智咲学生の近況報告を受けるとともに、防衛大学校受験希望者の保護者に対する説明を実施した。

夏季休暇を利用して事務所を訪れた伊藤学生は、陸海空の進路の中から陸上自衛官に決めたことを報告してくれた。この報告を受けた静岡募集案内所長・谷本明1等海尉が、自らの経験をもとに幹部自衛官の役割や心構えなどについてアドバイスすると、伊藤学生は先輩幹部自衛官の話に熱心に聴き入っていた。

また、伊藤学生の訪問に合わせて防大受験希望者の保護者も来所し、我が子の受験に必要な準備や実際の学生生活に関する質問を行った。防大生として先輩となる伊藤学生は、一つ一つの質問に丁寧に答え、保護者の不安解消に努めるとともに、防大への進学を改めて助言していた。

静岡地本は、今後も静岡出身の防大生との交流を緊密に図るとともに、現役学生との懇談などにより防大受験希望者のサポートを積極的に実施していく。

防衛大学校学生が母校で「帰郷広報」



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、8月4日（金）、県立磐田南高等学校（磐田市）において防衛大学校学生の帰郷広報に協力した。

これは、同校の卒業生である防衛大学校2年生の伊藤龍太学生が、夏季休暇を利用して母校を訪れ、防大生活の近況報告などを行い防大に対する認識と理解を深めてもらうもの。

当日は、伊藤学生から同校進路課長の清水教諭に対し、防大での学生生活や授業・訓練内容の説明、今後の進路や抱負などについて近況報告が行われた。報告を聞いた清水教諭からは、防大での生活状況やいつ頃から防大を目指し始めたのか、受験対策はどうしたかなどの質問もあり、現役生徒に対する進路指導の参考になった様子であった。

母校訪問を終えた伊藤学生は「国防や災害派遣、国際協力活動へと繋がる防衛大学校はともやがたいのある進路であり、母校への帰郷広報を通じて防大の魅力を伝え、一人でも多くの後輩に防大を進路選択の一つとして考えてもらえるようにしたい」と話した。

静岡地本は、今後も入隊者や在校生と連携し、各出身学校に対し帰郷広報を積極的に実施して自衛隊に対する認識と理解の向上に努め、将来の自衛隊を担う若者の獲得に全力を尽くす。